土木学会創立50周年記念事業の経過と決算報告

土　木　学　会

1. まえがき

土木学会の創立 50 周年を記念するための各種の事業は，昭和 39 年 11 月をもってほとんど終了したのであるが，記念出版物の一つである日本土木史の刊行が少し遅れたのと，事業資金の募集がなお継続中であったため記念事業特別会計の決算は1ヵ年遅れて 41 年3月末をもって締めくくることとなった。

ここに決算報告をするに当って，記念事業の概要を述べ，事業の執行になみなみならぬご尽力をいただいた方々や，また不況の折柄，多額のご寄付をいただいた各方面の方々に深甚の謝意をささげるものである。

2. 記念事業委員会組織

当学会の創立50周年は昭和39年に当るのであるが，記念事業の計画はそれより約3ヵ年さかのぼって昭和36 年永田会長の頃から初められた。初めは記念事業の主なものとしては土木会館を建設する構想であった。鉄筋コンクリートの立派な会館を建設しようと計画され，さし当って金子源一郎氏を委員長とする会館建設委員会が 36 年7月発足した。ついで記念事業委員会が発足し準備幹事会ができて，昭和 37 年 12 月に至って記念事業の大綱を決定するとともに，事業遂行のための組織が決められた。すなわち，総務委員会は資金の募集および経理を主として，ほかに表彰のことなどを任務とし，行事委員会は記念式典，祝賀会，講演会等をとり行ない，記念出版委員会は日本土木史はじめ数種の刊行物の編集，出版を分担し，このほかに前記の会館建設委員会があり，以上4つの委員会でそれぞれ分担実施することとなったのである。

3. 図書館建設委員会（委員長　金子源一郎氏）

会館建設委員会は第一に敷地を物色したのであるが，交通や経費の点から現在学会のある国鉄の用地がもっとも適当であると決定された。しかしこの土地が大変むずかしい土地であることがだんだんわかってきたのである。すなわち，都市公園法による公園緑地であり，都市計画による道路予定地であり，風致地区の指定地であり，さらに文化財保護委員会の「史跡江戸城外濠跡」に指定されているといった，がんじがらめになった土地である。

東京都首都整備局とたびたびの折衝にもかかわらず，許可できる範囲は，仮設物であること，2階建以下であること，1棟の許容面積は 60 坪以下であること等であった。これでは当初の大会館建設計画は実施不可能である。50周年を翌年にひかえて関係者は焦燥の念に駆られたが，38 年夏に至って，図書館法による図書館なら公園内施設として許可される見込みであり，一方寄付金の免税措置も図書館なら可能であるが会館では不可能ということで，土木図書館を建設することに改め，委員会の名称も変え，理事会の承認を得て各種の許・認可の申請手続を進めたのである。

都市計画関係の許可申請および建築確認申請を東京都に，建物の増築願を地主である国鉄に，史跡の現状変更許可申請を文化財保護委員会にそれぞれ提出する一方，大蔵省に指定寄付に関する指定額を提出，これらの許可認可を得て，昭和 39 年6月着工，鉄建建設株式会社の請負によって同年 11 月しゅん工したのである。

構造は軽量鉄骨コンクリート ブロック造り，2階建延面積 602 m², 書庫，閲覧室，会議室，講堂等を備えている。この土木図書館建設については金子委員長のご努力はもちろんであるが，東京都首都整備局の関係の方々のご理解あるご協力のあったことを付記する。

4. 行事委員会（委員長　田中茂美氏）

この委員会は，式典，祝賀会，講演会，映画会，見学会等を担当したのであるが，式典は 11 月6日東京文化会館で，祝賀会は上野精養軒で，講演会は翌7日東京文化会館でそれぞれ盛会裡に行なわれた。また見学会は11月8日～10日，東京都内班（参加者 220 人），と東海道見学班（参加者 50 人）にわかれて行なわれた。

PR 活動については，映画コンクールを催してその入選作品による全国主要都市での巡回映画会を開催することにした。このコンクールに応募した作品は 32 編におよび，いずれもわが国の優れた国土建設技術を示す優秀

映画であり，また巡回映画会に参加した人々は延べて10 000人に達した。

5. 記念出版委員会 （委員長　佐藤寛政氏）

この委員会は種々検討の結果，つぎの記念出版物を刊行することとし，それぞれ委員，主査，執筆者等を決定し作業を行なった。

（1） 日本の土木技術—最近 100 年のあゆみ
（委員長　沼田政矩氏）
（2） 土木学会誌・論文集総索引 1915/1963
（委員長　千秋信一氏）
（3） 建設／創造／技術（工事写真集）
（委員長　片山裕一氏）
（4） 土木学会 50 年略史　（事務局担当）
（5） 土木学会誌記念特集号（第 50 巻1号）
（委員長　八十島義之氏）
（6） 土木工学ハンドブック　（委員長　福田武雄氏）
（7） 日本土木史——大正元年より昭和 15 年
（委員長　青木楠男氏）

これらの出版物のうち日本土木史のほかは，50周年記念日までに刊行することができたが，日本土木史は大部なもので，かつ慎重を期さねばならぬ性質上，少し遅れて 40 年 12 月に至って刊行された。この土木史は，B 5版 1 730 ページ，執筆者 185 名におよび，将来の土木史資料として古典的地位を占めるものといえよう。

6. 総務委員会（委員長　永田　年氏）

この委員会は，予算の編成，資金の募集，経理，表彰関係等を担当したが，以下に主として予算，募金関係について述べる。予算の編成については，前記各委員会よりの予算の提出後，つぎのような予算を決定した。

（1）	図書館関係（建物，設備備品，図書購入）	50 000 千円
（2）	記念行事関係（式典，祝賀会，講演会ほか）	4 800 〃
（3）	記念出版関係（7種の記念出版物補助額）	12 500 〃
（4）	諸経費（募金費　委員会費ほか）	2 700 〃
	計	70 000 〃

このうち図書館の建設に要する経費 50 000 千円 は，寄付された法人が免税になるよう大蔵大臣に指定寄付の申請をし，うち 48 500 千円が指定寄付として認可になった。

さて募金額 70 000 千円をつぎの区分に配分して，永田委員長が自ら奔走するほか，西松，滝山両副委員長はじめ委員諸氏の熱心な努力がなされたのである。

建設費関係	（総合建設，埋立，橋梁ほか）	40 000 千円
関連産業	（電力，私鉄，セメント，鉄鋼，機械）	14 000 〃
地方庁，協会	（都道府県，市，協会）	6 000 〃
会　員	（個人会員，上記以外の特別会員）	10 000 〃
	計	70 000 〃

これに対し 39 年 10 月末の記念式当時は，申込額は 57 000 千円程度であったが，41 年 3 月 73 843 千円となり，目標額を上まわる成積をおさめた。

募金額の区分別内訳はつぎのとおりである。

	目　標　額	募　金　額
建　設　業	40 000 千円	38 950 千円
関　連　産　業	14 000	14 700
地　方　庁　協　会	6 000	9 715
会　費	10 000	10 478
計	70 000	73 843

これを団体と個人とに分けると

団　体	345 団体	67 390 千円
個　人	4 437 名	6 453

寄付者は個人，団体をとわず全国の土木関係のあらゆる層におよんでおり，当学会の幅の広さと奥行の深さを感じさせるものがあった。

7. 支出について

支出の決算額はつぎのとおりである。

土木図書館建築費	43 593 568 円
建築物工事費	20 818 270
設備，備品費	18 846 713
植樹その他工事費	3 928 585
図書購入費	5 168 631
図書館整備費	1 460 999
記念行事費（収入を差引いた額）	3 418 356
記念出版物費（　〃　）	13 195 176
諸　経　費	2 965 395
計	69 802 125

収入は寄付金 73 843 409 円に銀行利子 263 819 円を加え計 74 107 228 円，これに対し支出の計 69 802 125 円を差引き，4 305 103 円の残余金を生ずることとなった。

8. 残余金の処分

今回の記念事業の資金募集に当っては，「記念事業計画趣意書」に基づいて関係各方面の方は募金に応ぜられたものであるので，残余金の使途は前記趣意書の範囲をこえてはならないことになるので，総務委員会ならびに理事会はつぎのごとく決定したのである。

（1） 昭和16年以降の日本土木史の編集に使用する。

今回の日本土木史は大正元年から昭和 15 年までであって，昭和 16 年以降の土木史を資料散逸前に編集する必要がある。

（2） 土木図書館の図書の充実に使用する。

以上の決定に基づいて新しい日本土木史の編集費として特別会計を設置して 4 305 千円をあてることとした。また 50 周年記念出版物のうち棚卸図書を評価すると約 1 349 千円となるが，これらの売上代金は土木図書館の図書の購入費にあてることとした。

なお記念事業の詳細については，学会誌 40 年 1 月号に登載されており，また応募者の芳名録は学会誌 40 年 1 月号と（39 年 11 月までの分）40 年 6 月号（40 年 4 月までの分）に登載されているが，それ以後つぎの方々から寄付があったので記して謝意を表します。

9. 寄付応募者芳名録（昭和 40 年 4 月より 41 年 3 月受付まで・敬称略）

20 000 円　鈴中工業株式会社（東京都）
3 000 円　玉田博一　辻川秀夫
2 000 円　大浦弘夫
1 500 円　大西次郎　小町谷武司　星野晴彦
1 000 円　福田　修
500 円　平田　卓

（土木学会専務理事　羽田　巌・記）

50 周年記念出版物案内

■日本の土木技術 —100 年の発展のあゆみ—

体　裁：A 5 判 488 ページ　　定価：**1 200** 円（〒 150 円）

内　容：I　土木技術と国土の開発／II　水の利用と水のたたかい／III　交通路の整備／IV　都市の建設／V　材料の進歩と構造技術の進展／VI　基礎技術の進歩／付　土木技術史を中心とした年表／索引

■土木学会誌・論文集総索引　1915／1963

体　裁：B 5 判 260 ページ　写真植字オフセット印刷　定価：**800** 円（〒 100 円）

内　容：本書は大正 4 年学会創立以来 50 年間（48 巻）にわたり学会誌，論文集に登載された約 5 000 件の題目を 23 章 195 節に整理し，他部門にまたがる論文は重複をいとわず索引するのにきわめて親切な配慮をしてあります。また，付録として過去の文献抄録をもとり入れてあります。

■建設／創造／技術（工事写真集）／土木学会編／彰国社刊

体　裁：A 4 判 233 ページ　箱入上製　　定価 **3 800** 円（〒 200 円）

内　容：最近 10 年間の土木の全ぼうを写真および解説でとらえ，立体的にとりまとめたのが本書であり，従来の写真集のイメージを打破した内容は高く評価されている。

論　文：日本における建設の問題点／高橋　裕・開発と新しい生活の創造／川喜田二郎・土木技術—昨日と今日／久野悟郎

写　真：ダム／発電施設／土地造成・団地／農業／災害／河川・海岸／砂防／都市計画・オリンピック施設／上下水道／国鉄・鉄道橋・トンネル／私鉄／地下鉄／特殊鉄道／道路・道路橋／港湾／空港／研究・試験・実験／基礎工・土工・建設機械／材料／測量・その他

展　望：産業基盤のための建設■災害に対応する建設／高橋　裕・国造りにおける産業偏重より生活創造への移行，わが国における交通関係施設の現況および課題／鈴木忠義・**最近 10 年間の主要工事リスト**

■日本土木史　—大正元年～昭和 15 年

体　裁：B 5 判　8 ポ横一段　本文 1 733 ページ 図 410 葉 表 500 点 写真 150 枚余 上製箱入背革製の豪華製本

定　価：**12 000** 円（送料学会負担）

内　容：第 1 編　河川・運河・砂防・治山／第 2 編　港湾・漁港・航路標識／第 4 編　都市計画・地方計画／第 5 編　道路／第 6 編　軍事土木／第 7 編　上下水道および工業用水道／第 8 編　土木行政／第 9 編　建設機械／第 10 編　トンネル／第 11 編　発電水力およびダム／第 12 編　鉄道／第 13 編　水理学／第 14 編　応用力学／第 15 編　土性および土質力学／第 16 編　測量／第 17 編　土木材料／第 18 編　コンクリート／第 19 編　土木教育史／第 20 編　学協会史

■土木工学ハンドブック　土木学会編／技報堂刊

判　型					
A 5 判全一冊皮製	2 880 ページ	定価：10 000 円	会員特価	9 500 円
A 5 判全一冊布製	2 880 ページ	定価：8 000 円	〃	7 500 円
A 5 判　上　巻	1 580 ページ	定価：4 500 円	〃	4 300 円
A 5 判　下　巻	1 300 ページ	定価：4 500 円	〃	4 300 円
B 5 判　上　巻	1 580 ページ	定価：7 000 円	〃	6 700 円
B 5 判　下　巻	1 300 ページ	定価：7 000 円	〃	6 700 円

■土木学会 50 年略史　1914／1964

体　裁：B 5 判　口絵写真 6 ページ　本文 86 ページ　　実　費：200 円

内　容：土木学会歴代会長／沿革／組織／事業／本会と他の関係団体／土木学会支部規定／年表／土木学会役員一覧（昭和 30 年～39 年）

注：上記図書を購入ご希望の方は土木学会までお申込み下さい。